

令和2年度 富田林市「農業従事者アンケート」調査の結果報告書

令和2年7月22日

富田林市農業委員会

大阪府農業会議

農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地の増加など大きな社会課題である中、現在ある農地を次世代に残し、持続可能な農業のあるまちづくりを推進することが求められています。

そのため、市内各地区の現状を把握し、今後の話し合いなどの参考資料とするとともに、本市農業振興施策などへの基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。。

本調査にご協力いただきました市内農業従事者の皆様には厚くお礼を申し上げます。

なお、集計上の「割合()」については、アンケート有効回答者数に対する割合です。

各項目に未記入回答が存在するため、合計値が100%にならない場合があります。

一方、複数回答設問では、合計値が100%以上となります。

*本調査の自由意見一覧は別紙に添付しています。

1. アンケート調査の実施状況

実施日時 令和2年4月30日に郵送

提出期限 令和2年5月20日

調査対象 市内農業従事者1,656世帯

2. 回収状況（令和2年7月16日現在）

回収世帯 799世帯

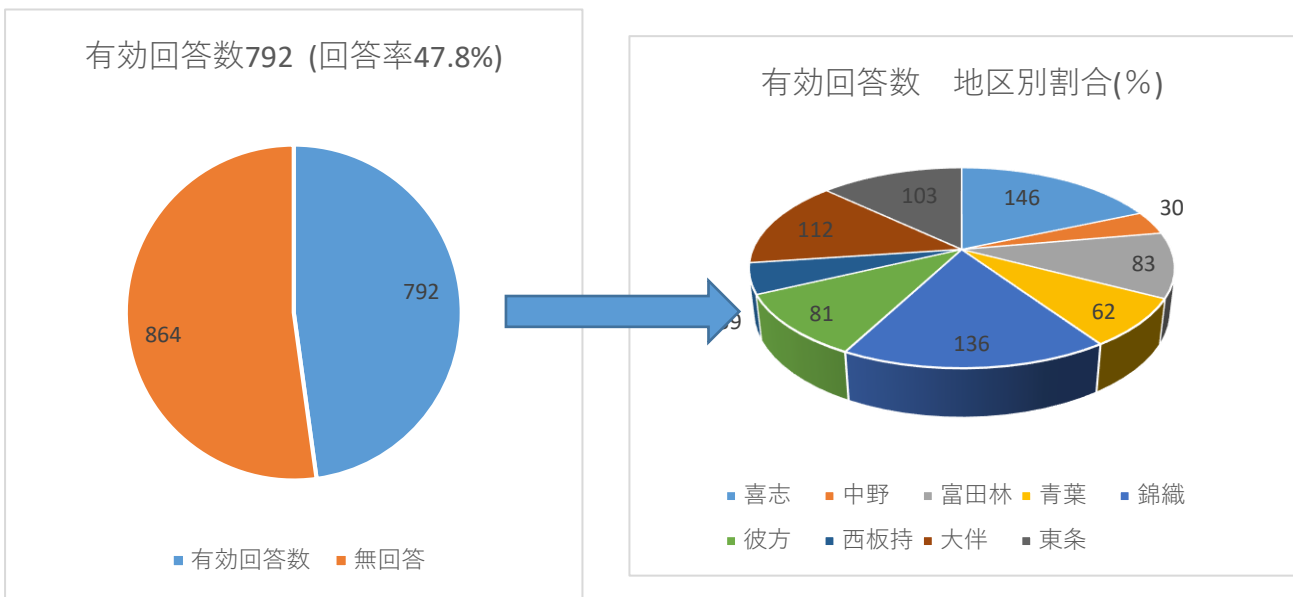
有効回答数 792世帯（上記のうち白紙回答が7世帯）

有効回答率 47.8%

3. 主たる従事者（有効回答者）の属性（設問1～5）

ア. 地区別の有効回答率と主たる従事者の平均年齢

	地区名	郵送数	有効回答数	無回答	有効回答率%	想定平均年齢(歳)
1	喜志	283	146		51.6	69.9
2	中野	66	30		45.5	72.3
3	富田林	164	83		50.6	71.5
4	青葉	148	62		41.9	70.3
5	錦織	244	136		55.7	71.6
6	彼方	160	81		50.6	69.4
7	西板持	100	39		39.0	67.9
8	大伴	251	112		44.6	70.9
9	東条	240	103		42.9	69.2
	全地区	1656	792	864	47.8	70.4



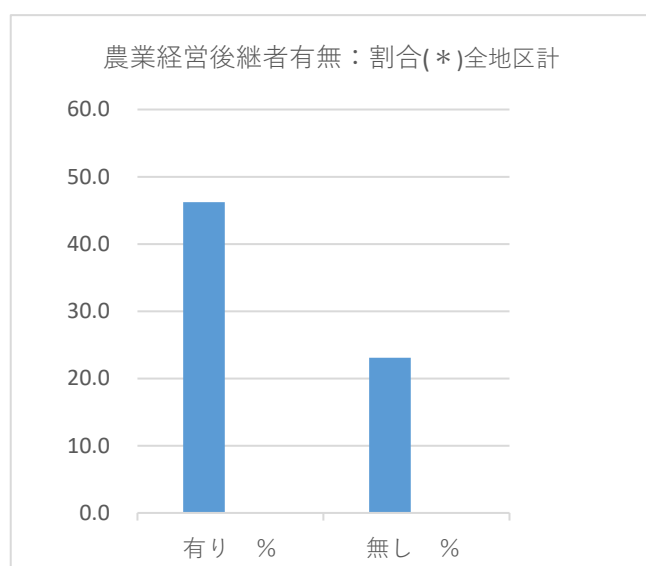
有効回答者の想定平均年齢は、70.4歳（全地区集計）で各地区の平均年齢もその前後3歳以内である。

イ. 家族構成（全地区集計）

家族構成の割合(*)（複数回答可の全地区集計）では、「子」が55.3%、「その他(配偶者等)」が33.6%、「父母」が27.0%の順に多くなっています。

ウ. 農業経営の後継者の有無

地区名	後継者有無の割合(*)		相続人有無の割合(*)	
	有り %	無し %	有り %	無し% ⇒
1 喜志	48.6	31.5	48.6	13.0
2 中野	56.7	33.3	33.3	6.7
3 富田林	43.4	21.7	51.8	10.8
4 青葉	32.3	21.0	59.7	14.5
5 錦織	47.1	22.8	43.4	6.6
6 彼方	51.9	27.2	45.7	9.9
7 西板持	43.6	7.7	51.3	10.3
8 大伴	50.9	23.2	45.5	7.1
9 東条	40.8	13.6	59.2	13.6
全地区	46.2	23.1	49.1	10.4



経営後継者が「有り(同居・別居含む)」の割合(*)は、46.2%

経営後継者が「無し」の割合(*)は、23.1%

以上のように、約半数の農家は農業経営後継者が有りと、一方約4分の1の農家には後継者がいない。この後継者無しの内、約半数(49.1%)は農地の相続人はいる。

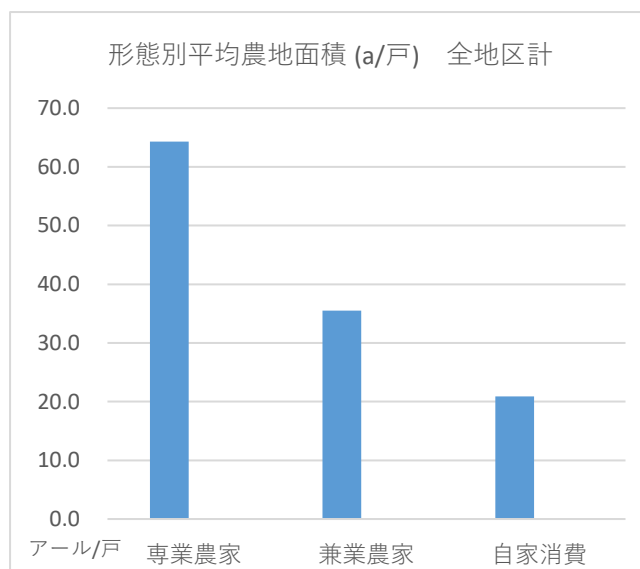
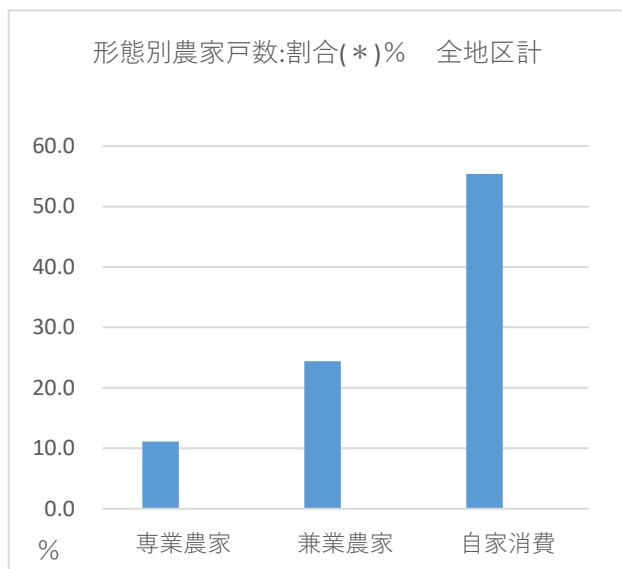
なお、地区別集計では、「経営後継者有り」が最も低いのは青葉地区で32.3%「経営後継者無し」が最も高いのは中野地区で33.3%である。

4. 農業経営の状況（設問6～9）

ア. 形態別農家戸数割合や平均農地面積

地区名		形態別戸数の割合(*)%			形態別平均農地面積(a/戸)		
		専業農家	兼業農家	自家消費	専業農家	兼業農家	自家消費
1	喜志	7.5	26.7	54.1	42.0	30.2	21.8
2	中野	3.3	20.0	60.0	10.0	29.3	15.3
3	富田林	6.0	20.5	68.7	25.7	23.8	10.9
4	青葉	6.5	29.0	56.5	70.1	40.6	19.2
5	錦織	10.3	19.9	61.8	36.7	23.3	20.6
6	彼方	8.6	28.4	50.6	49.8	40.6	23.9
7	西板持	41.0	15.4	35.9	103.6	35.7	20.4
8	大伴	14.3	25.9	51.8	72.6	29.5	17.0
9	東条	13.6	27.2	51.5	78.6	62.0	36.1
全地区		11.1	24.4	55.4	64.3	35.5	20.9

*最も大きき地区に色付けしています。



以上のように、全地区集計では本市の専業農家は約1割で、兼業農家でも全体の4分の1にしか満たない。また、農家の約半数強が自家消費などで耕作している。

一方、約1割の専業農家が1戸当たりの平均農地面積が60アール以上あり、全体の半数強の自家消費農家の平均農地面積が約20アールである。

イ. 主要作物（複数回答可の全地区集計）

主要作物の割合(*)（全地区集計）の上位3位は、以下のとおりです。

「米・麦・大豆」が、55.5%

「施設野菜」が、50.0%

「果樹」が、16.5%

5. 現在の耕作状況（設問10～12）

ア. 現在不耕作地が有る割合(*)と今後不耕作地になる割合(*)（全地区集計）

現在、耕作していない農地が有る割合は、 36.8%

今後、耕作できなくなる農地が有る割合は、 45.2%

イ. 耕作していない、できなくなる主な理由割合（複数回答可の全地区集計）

上位3位は、以下のとおりです。

「高齢で体力がない」が、 38.1%

「後継者がいない」が、 30.1%

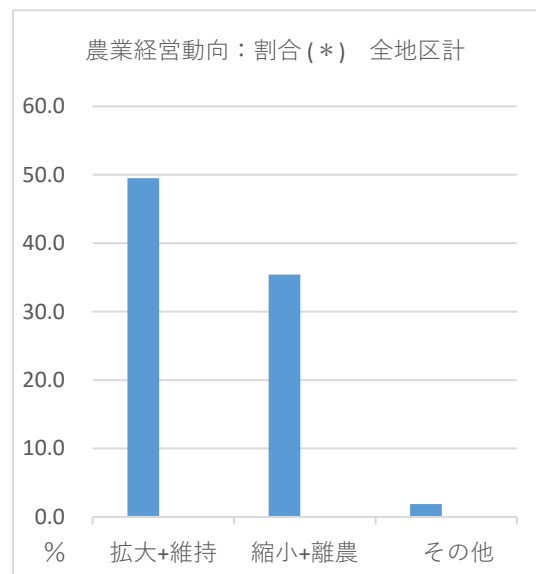
「農地の条件が悪い」が、 19.9%

全地区集計で46.2%が農業経営の後継者が有るとしている一方で、現耕作者の高齢化や後継者がいないことが、耕作できなくなると危惧する大きな要因となっている。

6. 今後の農業経営（設問13～15）

ア. 今後の農業経営動向の割合(*)

		農業経営動向の割合(*)%		
地区名		拡大+維持	縮小+離農	その他
1	喜志	48.6	37.0	2.7
2	中野	60.0	30.0	0.0
3	富田林	55.4	26.5	1.2
4	青葉	33.9	50.0	3.2
5	錦織	42.6	40.4	2.2
6	彼方	43.2	42.0	1.2
7	西板持	56.4	23.1	2.6
8	大伴	56.3	25.0	1.8
9	東条	56.3	36.9	1.0
全地区		49.5	35.4	1.9



*最も大きき地区に色付けしています。

イ. 経営動向（拡大・維持、縮小・離農）の手法割合（複数回答可の全地区集計）

拡大・維持していく手法割合で「現状のまま耕作」が、91.0%

縮小・離農していく手法割合で「農地を売りたい」が、41.8%

〃 「農地を貸したい」が、39.6%

以上のように、農業経営を拡大・維持したい割合が約半数（49.5%）であるが、そのほとんどが現状のまま維持したいである。縮小・離農したい割合が35.4%である。

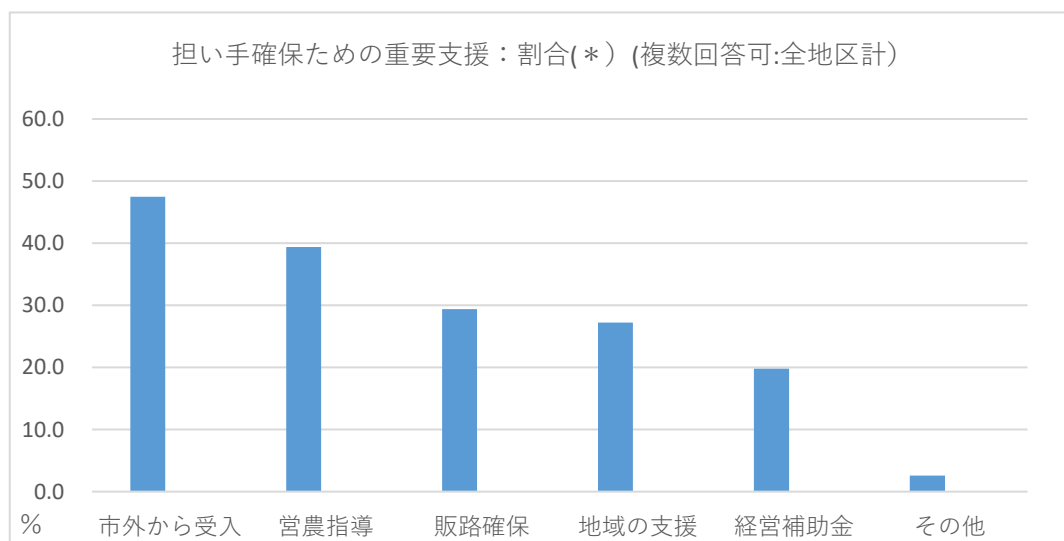
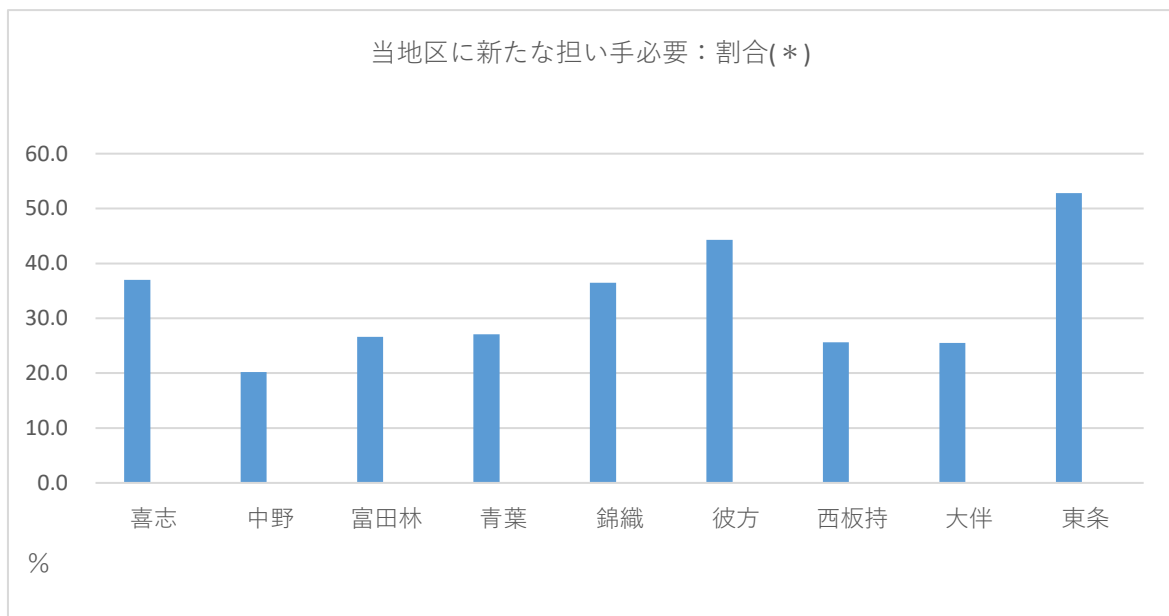
7. 新たな担い手（新規就農者等）確保への重要支援（設問16）

ア. 当地区に新たな担い手が入ってくる必要性の割合(*)

必要である場合の重要支援策の割合(*)（複数回答可）

地区名	担い手確保の割合(*)		担い手確保の重要支援の割合(*) 複数回答可					
	必要	不要	市外から受入	営農指導	販路確保	地域の支援	経営補助金	その他
1 喜志	37.0	42.4	49.6	44.8	25.4	25.5	25.9	8.6
2 中野	20.2	62.1	41.7	27.8	19.4	8.3	8.3	0.0
3 富田林	26.6	50.2	18.0	40.5	26.5	29.5	14.5	0.0
4 青葉	27.1	43.1	70.8	25.8	21.7	48.3	10.8	0.0
5 錦織	36.5	37.4	55.6	32.0	25.8	27.6	22.9	1.0
6 彼方	44.3	34.5	56.4	35.8	21.9	20.2	16.1	5.6
7 西板持	25.6	36.3	66.7	62.5	75.0	20.8	12.5	4.2
8 大伴	25.5	51.2	37.5	36.7	15.3	48.9	28.6	3.3
9 東条	52.8	32.7	60.3	46.4	48.1	18.6	23.1	0.0
全地区	35.7	42.3	47.5	39.4	29.4	27.2	19.8	2.6

*最も大きい3地区に色付けしています。



以上のように、新たな担い手確保の必要性が高い上位3位は、以下のとおりです。

東条地区が、52.8%

彼方地区が、44.3%

喜志地区が、37.0%

そのための重要支援としては、市外からの就農者受け入れ、新規就農者への営農支援や販路確保が上位を占めています。

8. 小規模経営農業への重要施策（設問17）

ア. 小規模家族経営農業でも耕作継続するため重要施策の割合(*) (回答2つまで)

小規模経営農業耕作継続のための重要施策：割合(*)					
地区名	農道整備	排水路整備	鳥獣被害対策	農作業支援	その他
1 喜志	29.2	33.5	8.6	31.7	4.0
2 中野	19.4	32.3	7.8	52.6	0.0
3 富田林	7.8	25.4	1.8	38.2	2.7
4 青葉	23.4	25.2	5.9	30.8	11.4
5 錦織	28.8	29.9	8.3	32.4	4.1
6 彼方	26.1	27.5	34.5	23.5	3.3
7 西板持	11.1	17.3	0.0	35.1	3.2
8 大伴	29.8	31.8	9.9	24.6	4.3
9 東条	25.6	32.3	52.3	22.0	6.7
全地区	22.9	29.4	18.0	30.6	4.4

以上のように、小規模家族経営農業でも耕作継続するため重要施策としては、農作業の支援、農業用排水路や農道の整備が上位を占めています。

9. 地域での話し合いの重要度（設問18）

ア. 各地域で今後の農業振興について、話し合いが大切と思うか。：割合(*)

「はい」が、 58.0%

「いいえ」が、 15.2%

以上のように、約6割の人が地域での話し合いが大切と答えている。